

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	大西 慎太郎
論文担当者	主査 平田 淳一
	副査 垣淵 正男
	副査 島 正之
学位論文名	Incidence of and risk factors for deep vein thrombosis in patients undergoing osteotomies around the knee: comparative analysis of different osteotomy types (膝周囲骨切り術における周術期下肢静脈血栓症の発症率とリスク因子：各術式間における比較検討)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>【背景】 進行した変形性膝関節症(膝 OA)に対する周術期深部静脈血栓症(DVT)は重要な合併症であるが、膝周囲骨切り術(AKO)における各術式間の周術期 DVT 発症率を比較した研究はこれまでに報告がない。 【目的】 AKOの各術式間における周術期 DVTの発症率を比較し、リスクファクターを調査、検討すること。【仮説】 AKOにおいて各術式間での術後 DVT発症率が異なる。</p> <p>【対象と方法】 対象は自施設で施行した AKO 404 膝症例。除外症例を 1) DVT、PE の既往 2) 靭帯再建手術併用 3) 両側手術 4) 他の骨切り術 5) 術前から抗凝固薬の内服例 6) 悪性腫瘍 7) 高度肥満(BMI &gt;40) を満たす症例に設定し、各術式 1) 内側開大式高位脛骨骨切り術(MOW-HTO)、2) 外側閉鎖式高位脛骨骨切り術(LCW-HTO)、3) Double level osteotomy(DLO)で比較した。下肢 DVT は術前(1ヶ月)と術後(7日目)に下肢エコーを用いて評価した。MOW-HTO は即日荷重を許可し、LCW-HTO で術後2週間、DLO で術後3週間は免荷とした。DVT 発症群と非発症群において、年齢、性別、BMI、術前 Physical status(PS)、血中ヘモグロビン値、血小板値、D-dimer 値と手術側、手術時間を統計学的に比較検討した。</p> <p>【結果】全DVT発症率13.8%(45/326膝)で、MOW-HTO群:11.9%(19/159膝)、LCW-HTO群:22.6%(21/93膝)、DLO群6.8%(5/74膝)だった。DVT発症率はLCW-HTO群が、MOW-HTO群・DLO群と比較して有意にDVT高かった(odds ratio: 2.54; 95% CI 1.334-4.836; p &lt; 0.01)。</p> <p>【結語】 AKO術後DVTは13.8%の患者に生じ、DVT発症率はLCW-HTO術後群で有意に高かった。本研究は、主流となっている最新のAKO術式間での合併症のリスクファクターを世界的にも明らかにしたものである。これらの知見は、今後の術式の選択、手術手技、さらには周術期管理の安全性に大きく寄与することが期待される点において臨床的に意義がある研究である。したがって、本研究は学位論文に値すると判断した。</p>	